

肢体内

音楽科「たたいてあそぼう」中学部1年(音楽遊び)

音楽を形づくる要素のうち「音色」に着目できる単元を考えました。身の回りにあるもの（バケツ、段ボール、ボウル）を楽器として捉え、その音を音色として意識し、音の響きを感じて鳴らしたり触れたりすることや、音を聴いて身体で表現したり見たりする動きを引き出すことを大切にしました。

構想、指導案検討で大事にしたこと

- ・生活の中の音を「音色」として着目できるような授業展開
- ・取り上げる楽器(生活雑貨)と音色の吟味、精選
- ・生徒が自分なりの鳴らし方ができる環境設定
- ・効果的なサブティーチャーの支援の検討

新井教授の助言

よく知る生活雑貨が「音」を発して楽器に変わること。その瞬間、音楽科へと視点がシフトする。そこへの働きかけの全てを発問と捉える。

生活の中の音に着目する(教科の視点をもつ)ことで好きな音を見つけ、新しい自分の発見につながる



本時の授業

本時の探究課題

身近にあるものをたたいてみよう
どんな音がするのかな



- ・3つの音色を鳴らしてみて…自分の好きな音を発見
「段ボールの音色が一番好き もっと鳴らしたいな」
- ・教師のピアノ演奏に合わせ、自分で選んだ楽器を手や足を使って思い思いに鳴らして合奏
- ・教師が一緒に楽器を鳴らし、生徒の思いを推測、代弁

授業者との学びと授業改善のポイント

教科の見方・考え方切り替わる働きかけと発問

生活の中の音から音素材の音を抽出し、その音色のよさや面白さに気づけるような働きかけ自体が発問

重度重複障害のある生徒の評価につながる見取り

音色を聴いた生徒の様子や表情の変化から気持ちや思考を推測し、代弁したり評価につなげたりする

知的中

美術科「組んで組んで組みまくろう！」中学部3年(造形遊び)

立体的作品を見るという造形的な見方・考え方を体感できる単元を考えました。「縦・横・高さ・広がりを感じながら面白い形に組み合わせる」「ねらってつくるのではなく、できた形を楽しむ、そこからさらに構想して『ドンドン』つくる」姿を目標にしました。『ガッチャリ』『グングン』『ドッシリ』等の言葉を使って立体的に組むためのコツを表現したり、広い空間でたくさんの大ないいろいろな形の材料で制作したりできるように場所や教材を設定しました。

構想、指導案検討で大事にしたこと



- ・絵画の発達過程表から生徒の実態を分析
- ・育てたい生徒の姿を具体的に描く
- ・体全体で素材にかかわりたくなる環境
- ・美術科(造形的な視点)での目標と評価

新井教授の助言

作品をつくる中での生徒の思いや、どのような学びが展開されていたか、エピソード記録を書いて評価につなげる

イメージしなかつた創造物が、授業をとおして見えてきて、自分のつくりたかつたものを発見することが美術の面白さ

本時の授業

本時の探究課題



段ボールをドンドン組み合わせて、何ができるかな？

- ・大量の大きな段ボールに興味を持って、体全体で「ガッチャリ」「グングン」「ドッシリ」と組みまくる姿
- ・自分のイメージ通りにいかなくても何度も組んで試してみる
…自分や素材との対話
- ・深い学びにつながる、発問のタイミングや言葉かけの工夫

授業者との学びと授業改善のポイント

学びのプロセスを基にした評価

事実のみを記録していくのではなく、教科の見方・考え方をどのように働かせて学びが深まったかを記録し評価する

教科の見方・考え方についての教師間での共有と支援

その授業での「造形的な見方・考え方」について授業を担当する教師間で深く話し合い、支援と評価につなげる

